

キャラクター名  プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ ノイマン		ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	中学生
	オプショナル		年齢	13	性別	女
覚醒	憤怒	衝動	破壊	初期侵食率	33	%
出自	兄弟	経験	大きな転機	邂逅	師匠	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	32
肉体	2	1	1			4	行動値	6
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	6
精神	4	0	0			4	戦闘移動	11
社会	1	0	0			1	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転:			芸術: 料理	1		知識:			情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
素手		0	1	1		足
“稲妻落とし(ブリッツフェルス)”	白兵	4r+4		13		+侵蝕補正 1+2+3+7 放心付与 コスト:9
“眩き雷光の一蹴(ヴァーナル・ゼスト)”(100%)	白兵	3r+4		27+3D		+侵蝕補正 1+2+3+4+5+6+7 ガード不可、装甲無視 放心付与 コスト:23

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
思い出の一品					
コネ: UGN幹部					

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス: 雷帝	P	N		
固定ロイス: 一ヶ谷 討夜	P 慕情	N 憐憫		
固定ロイス: 綾崎 結乃	P 好意	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	4	残り財産P:	1
--------	---	--------	---

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
ラストアクション	1	5	オート	至近	自信	自動	100	
効果:	戦闘不能時に使用 メインプロセスを行う 1シナリオ1回							
コンセントレイト:	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	C値-LV(下限7)							
スタンボルト	1	3	メジャー	武器	-	対決	-	
効果:	1点でもダメージを与えた場合、対象に放心付与							
雷光□	3	2	メジャー	-	-	対決	-	
効果:	攻+[LV*2]							
バリアクラッカー	1	4	メジャー	武器	-	対決	80	
効果:	ガード不可、装甲無視 1シナリオLV回							
MAXボルテージ	1	4	メジャー	-	-	対決	80	
効果:	攻+10、ダイス-1個 1シナリオLV回							
ミカヅチ	1	6	メジャー	-	-	対決	Dロイス	
効果:	ダメージロール+3D 1シナリオLV回							
急所狙い	3	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果:	攻+[LV*2]							
人間発電機	★	-	メジャー	至近	単体	自動	-	
効果:	その名の通り ピリピリ							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

【討夜のフリーバーだった妹 OC1王卓完結のおまけに作成】  
「私は…いつまでも後悔して生きるぐらいなら、後悔なんてしないで生きることにしてんの！」  
チルドレンとしてUGNに配属された明朗快活な13歳の少女。討夜の実妹。一人称は「私」、二人称は「あんた」or名前呼び、討夜に対しては基本「バカ兄」いつまでも後悔しながら立ち止まったままの兄の姿を見てきたせいか、後悔とか立ち止まりとかとても嫌い。ウジウジ考え込むよりまず動け。  
両親は物心着く前に他界した…らしい。まだまだ幼かったため両親の顔は記憶に残っておらず、写真以外では見たことがない。物心付いた頃には七瀬家で育てられており、兄の初恋の相手でもある響とは姉妹のように育てられた。兄と姉に囲まれて幸せな幼少時代を過ごしていたが、6年前に生まれつき病弱だった響が他界してしまったことで状況は激変する。大切な姉との別れ、そして響の死に絶望した兄の失踪。幼すぎる彼女は何も出来ず、ただただ涙を流すことしかできなかった。…だが少女は絶望しなかった。涙を流すことはあっても決して絶望だけはせず、前を向いて歩き出そうとした。そうして数ヶ月が過ぎた後、知らない人に連れられて兄が帰ってきた。家を飛び出してから今までの間、どうやらこの人のところに行きたい。一嘘だ。直感でそう理解できた。でも本当のことなんてどうでもいい、今はただ兄が帰ってきてくれたことが嬉しかったから。  
兄は、バカ兄は変わってしまっていた。どこか空虚にへらへらと笑い、いつまでもたっても後ろを向いたまままで前に進もうとしない。待っていれば兄も自分と同じように前を向いてくれるはずだ。そう信じて待った、待ち続けた。でも、ダメだった。あのバカ兄はいつまでもたっても立ち止まったまま、後悔ばかりでウジウジウジウジ……  
兄がレネゲイド関連から遠ざけていった甲斐もあって、適性はありながらもオーヴァードとして覚醒することはなかったが1年前のある日、転機が訪れる。いつもと変わらない、見慣れた兄の姿。立ち止まったまま、いつまでも後悔したままの情けない…悲しい姿。そんな姿を見てみると、心の底からいつも以上の、抑えきれないほどの感情が沸き上がってくるのを感じた。『こんなやつもう壊しちゃえ』そう心の底で囁いている声が聞こえる。ダメ、抑えきれない。衝動のままに暴走して兄を殺そうとしてしまう。幸い、能力も不完全だったため事無きを経て、暴走も兄の手で無事に制止させられた。覚醒後はチルドレンとしてUGNで能力制御の方法を教わる毎日。師匠でもある玉野椿とはその頃からの付き合い。オーヴァードとなったことで世界の真実と兄の失踪中に何があったかを知り、兄に対する風当たりはますます強くなった。  
遺産の力を駆使しながら戦う兄とは異なり、純粋に自身の身体を用いた白兵戦を得意とする。